

- 本号の内容 ・「兵庫の会」が第2回総会&学習会……………p1
 ・「静岡の会」が富士富士宮地区集会……………p1

労働組合つぶしを許さない兵庫の会 第2回総会&学習会 (11/25)

11月25日、兵庫の会が第2回総会&学習会を神戸市立勤労会館で開いた。

学習会では、『賃金破壊 労働運動を「犯罪」にする国』を出版したばかりの竹信三恵子さん（ジャーナリスト）が、「関生事件が示す近未来労組の可能性」と題して講演。パワーポイントを使って、関西生コン事件の構図をわかりやすく解説しながら、この事件は「労働分野の解釈改憲」だと指摘。これを許せば、同じ手法がさまざまな市民運動や社会運動に広がることになると警鐘を鳴らした。



参加者は120人ほど。竹信さんがその場でサインした著書があつという間に50冊売り切れた。

「兵庫の会」は2020年10月結成。赤松範夫（弁護士）、岩佐卓也（神戸大学大学院准教授）、上原康夫（弁護士、ひょうご労働法律センター代表）、碓氷良介（全港湾神戸支部委員長）、岡崎進（ひょうごユニオン委員長）がよびかけ人。賛同団体は、フォーラム平和・人権・環境ひょうご、自治労兵庫県本部、兵庫県職労、尼崎地区労人権平和センター、ひょうごユニオン、あかし地域ユニオン、但馬ユニオン、武庫川ユニオン、姫路ユニオン、ユニオンあしや。

「関西生コン事件と労働組合運動の将来」

静岡の会 富士富士宮地区集会実行委員会 (11/18)

11月18日、「静岡の会 富士富士宮地区集会実行委員会」が「関西生コン事件と労働組合運動の将来」集会を開催。富士市、富士宮市を中心に県内全域から約60名が参加した。

中林弘一（元富士市職委員長）事務局長の司会で開会、坂本直己（全日建静岡支部委員長）の主催者あいさつ、小長谷保弁護士の来賓あいさつのち、関生支部の七牟礼時夫副委員長が事件の概要を報告した。

つづいてジャーナリストの竹信三恵子さんが「関生事件が示す『賃上げできる労組』の潰し方」というタイトルで講演。「今回の弾圧は、最初に相手側の情報戦でやられた、だからこちらも情報戦でやり返す、対抗情報を出して行くことが重要だ」と訴えた。

質疑・討論の後、千頭和達也（全港湾田子ノ浦支部委員長）が閉会あいさつを述べた。

「静岡の会」は2019年12月結成。共同代表は、笹沼弘志（静岡大学教授）、増本雅敏（弁護士）、塩沢忠和（弁護士）、大橋昭夫（弁護士）、阿部浩基（弁護士）、小長谷保（弁護士）、萩原繁之（弁護士）、渡辺敏明（静岡県平和・国民運動センター会長）、鈴木英夫（静岡県共闘代表幹事）、坂本直己（全日建静岡支部委員長）の各氏。鈴木孝雄氏（静岡県平和・国民運動センター事務局長）が事務局長。富士、富士宮地区の労組参加の実行委員会をつくって集会を準備した。

発行：全日建（全日本建設運輸連帯労働組合） お問い合わせ03-5830-6418